広域観光戦略「瀬戸内・松山構想」第二幕へ

～ 松山市の観光戦略を聞く　野志克仁・松山市長インタビュー ～

高速船スーパージェット

愛媛県松山市の野志克仁市長は、2010年の市長就任以降新たな観光戦略「瀬戸内・松山構想」を軸に様々な観光戦略を展開。瀬戸内海国立公園指定80周年、道後温泉本館改築120周年、四国八十八ケ所霊場開創1200年の3つが重なる2014年をシンボルイヤーに観光客誘致に成功した。2015年以降の松山市の観光戦略を野志市長に聞いた。また2015年度の松山市の観光情報もあわせて紹介する。

野志 克仁 氏
松山市長

――1期目（2010年11月～2014年11月）を振り返って

野志　1つのエリアだけ、行政だけという考え方では、できることは限られてくる。松山市にとって観光産業は基幹産業。中長期的な視点に立った新たな観光戦略を生み出していこうと考えた、それが瀬戸内・松山構想。

道後温泉の宿泊客数は3年連続で増加し、過去べ10年間で最高を記録した。大手旅行会社の集中送客キャンペーンも次々行われ、大型団体ツアー誘致も実現した。修学旅行についてはゼロからのスタートだったが、今年度は過去最多の61校約1万人の学生が松山に訪れてくれた。こういった活動が国にも認められ、瀬戸内海道1号線が一翼を担う京都・広島・松山ルートが新ゴールデンルートとして推奨され、また、3年連続で国の補助事業として採択されるまでになった。

また、松山城がトリップアドバイザーの「行ってよかった！日本の城ランキング2014」で2位に、道後温泉は、楽天トラベルの「ココロ潤う。おんな一人旅に人気の温泉地ランキング」で1位、じゃらんの「憧れの温泉地ランキング」で1位、「ミシュラン旅行ガイド」（関西・中国・四国編）「もう一度行ってみたい温泉地ランキング」（中国・四国編）で1位に選ばれた。米ニューヨークタイムズ紙の「2015年に行くべき52カ所」に日本では唯一四国が紹介。四国遍路や道後温泉が掲載され、とくに道後温泉本館は120年の歴史を持つ天然温泉の公衆浴場として取り上げられたことも嬉しく思っている。

――4年間で一番印象的なところは

野志　交通機関や大手旅行会社への積極的なアプローチにより、3年間にわたり、JRの瀬戸内・松山キャンペーンやJTBの日本の旬キャンペーンなど合計8社による集中送客キャンペーンが次々と実施されたこと、また、「松山・広島割引きっぷ」という広域周遊型切符が誕生したこと、海外からの誘客を図る西遊紀行プロジェクトの第1弾として瀬戸内が選ばれたこと、日本初の地域版ミシュラン旅行ガイド「ミシュラン・グリーンガイド四国WEB版」が開設されたこと、それに、資生堂との椿パートナシップ協定の締結や明治村（愛知県犬山市）との明治体感パートナー協定の締結など、この他にもいろいろあってとても絞りきれない。

――シンボルイヤーとして、2014年は成功に終わった

野志　2014年は瀬戸内海国立公園指定80周年、道後温泉本館改築120周年、四国八十八ケ所霊場開創1200年と3つが重なっていたのは縁を感じる。ただし、2014年はゴールではなく、むしろ、これからの展開へ向けた土台を作った年であったと考えている。これから瀬戸内・松山構想の第二幕が始まる。

松山市だけでなく広域で、また、行政だけでなく官民連携も強化し、戦略パートナーとして、相互利益の関係を築きあげながら、恒常的な集客が行えるような観光ビジネス戦略を展開していきたいと考えている。

――次のテーマは明治維新150周年か

松山市では、正岡子規や夏目漱石など明治ゆかりの人物とその関連の地も多い。2015年は夏目漱石が松山に赴任して120年。2016年は夏目漱石没後100年と小説「坊っちゃん」発刊110年。そして、明治維新150周年を迎える2017年は、正岡子規、夏目漱石の生誕150年、坂の上の雲ミュージアム開館10年、俳句甲子園が第20回。そして「えひめ国体」も開催される。2017年はまさに次のシンボルイヤーと考えてもらってよい。愛媛、松山に注目が集まるこの時に道後温泉本館に加えて、新しい温泉施設でお出迎えをしたいと考えている。

松山と言えば夏目漱石の小説「坊っちゃん」を連想されるのではないか。市内にはそれに由来する道後温泉本館の坊っちゃんの間、坊っちゃん団子、坊っちゃん列車、からくり時計と見どころも多い。正岡子規は、子規自身のゆかりの地や句碑のほか、子規の功績である俳句と野球に関するものが多くある。子規記念博物館や坂の上の雲ミュージアムでも、おもてなしなら勝っているのだと再認識させられた。

そんな時、ふと資生堂のTVCMを見る機会があり、資生堂には、「椿」を冠した商品があり、マドンナを打ち出した宣伝展開もされている。しかも資生堂は、「美と健康」をテーマに異業種コラボも行っていた。松山・道後温泉と共通部分が多いと思いついたのがきっかけで資生堂との椿パートナー協定につながっている。現在、様々なコラボ企画が展開中だ。

――インバウンドも順調

野志　松山市の外国人観光客数は09年当時は、2～3千人だったものが、今は1万2千人。距離的に近いアジアに注目しており、昨年10月に台湾の台北市と友好交流協定が締結した。台北に松山（しょうざん）空港があるご縁。台北は270万都市で、松山市の5倍の人口を持つ都市と協定を結べたことは大きい。加えて、韓国からの誘客強化も考えている。韓国の2月は寒い。瀬戸内の温暖な気候を生かし2月の松山に誘客したい。

愛媛マラソン、道後温泉卓球大会をテーマに考えている。韓国のアシアナ航空とのトップと面談できており、次の展開を考えている。

欧米では、ミシュラン・グリーンガイドジャポンで、道後温泉本館3つ星、道後温泉2つ星、松山城2つ星、石手寺1つ星。また、WEB版のミシュラン・グリーンガイド四国も開設され、海外からの誘客を図る西遊紀行プロジェクトもスタートした。広島県内には欧米から観光客が多く来ている。新ゴールデンルートの一翼を担う広島・松山間の移動はスーパージェットでわずか68分、これまで築いてきた広島との関係を強化していきたい。

――松山の野球関連の観光素材も注目だ

野志　松山東高校が春の選抜に出場する。松山東高校の野球部は正岡子規が創設した。野球の振興や日本の野球用語の開発に尽力した正岡子規は、東京の野球殿堂博物館にも顕彰されている。松山東高校の甲子園出場は、地元の人に野球をテーマにした観光へも関心を持ってもらえる。昨年台湾で歴史的な興行成績となった台湾映画「KANO」は、甲子園がテーマ。主人公の一人として描かれた近藤兵太郎監督は、松山商業の監督として知られる人で、劇中、松山市出身者が活躍している。甲子園には台湾からの観光客が増えていると聞いている。坊っちゃんスタジアムに近藤兵太郎監督のモニュメントが建立された。台湾の人は野球が好きなので、松山市へのスポーツツーリズム拡大が期待できる。

坊っちゃんスタジアムも広く知ってもらうことで、2020年東京オリンピックの事前合宿地として選んでもらいたいと思っている。

――MICEに関しては

野志　松山市は、MICE関連では恵まれている。子規記念博物館の講堂は500人収容。松山市の総合コミュニティセンターのカメリアホールは1千人収容、愛媛県のひめぎんホールは、サブホール2千人収容、メインホールが3千人収容。会議や大会の規模にあわせて、会場を選んで貰えたり、組み合わせたりできる。会議や大会後などのアフターコンベンションとしては、道後温泉があるのも魅力。宿泊も、市内のシティホテルやビジネスホテル、道後温泉の旅館とキャパもあり選ぶことができる。新規に市街地中心部にホテルが2つ建ち、MICEの誘客に弾みがつく。

観光は「宝を生かす、宝を磨く」。市長になり、ノウハウのある様々な人と出会えたのが大きい。今後も松山市だけでなく、あらゆる連携を大事にして取り組んでいきたい。

瀬戸内・松山キャンペーン（2012年）

資生堂と「椿パートナー協定」締結（2014年）

商品化への感謝で日本旅行に訪問（2011年）

広域観光ルートの定着と観光ビジネス戦略に挑戦

松山市の観光戦略と成果

交通事業者や大手旅行会社への積極的なトップセールス

- ３年間合計８社による集中送客キャンペーンの実施
- 広域周遊型切符「松山・広島割引きっぷ」の誕生
- 修学旅行誘致数の増加

広域観光連携

- 広域官民連携組織「瀬戸内・松山ツーリズム推進会議」を設立

国策との連携

- 新ゴールデンルート（京都・広島・松山）誕生
- ミシュラン・グリーンガイド四国ＷＥＢ版の開設
- ３年連続で国の事業認定
- 「西遊紀行」プロジェクトのスタート

他業種との連携

- 松山商工会議所と「おもてなし日本一のまち」宣言
- 資生堂と「椿パートナー協定」を締結
- 明治村と「明治体感パートナー協定」の締結

今後の瀬戸内・松山のトピックス

２０１５年　・夏目漱石松山赴任１２０年
　　・被爆（終戦）７０周年（広島）
　　・大和ミュージアム開館１０年（広島）
　　・高野山開創１２００年（和歌山）
２０１６年　・夏目漱石没後１００年
　　・小説「坊っちゃん」発刊１１０年
　　・原爆ドーム・厳島神社世界文化遺産登録２０周年（広島）
　　・瀬戸内国際芸術祭（香川）
２０１７年　・正岡子規・夏目漱石生誕１５０年
　　・坂の上の雲ミュージアム開館１０年
　　・第２０回俳句甲子園
　　・えひめ国体開催
２０１８年　・明治維新１５０周年
　　・秋山真之生誕１５０年

「ミシュラン・グリーンライナー」号

道後温泉本館前（ファムトリップ視察）

子規記念博物館

２０１７年に向けて新たな入浴施設へ